現代日本のマンガにおける中近世ドイツ表象

研究代表者：林 祐一郎（京都大学大学院文学研究科西洋史専修修士課程）
共同研究者：吉田 瞳（京都大学大学院文学研究科西洋史専修博士課程）
中村 徳仁（京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程）

目次

はじめに

1. 大西巷一『乙女戦争』

2. 槇えびし『魔女をまもる。』

3. 竹良実『辺獄のシュヴェスタ』

おわりに

1500年頃のドイツ（神聖ローマ帝国）
（ライプニッツ・ヨーロッパ史研究所HPより画像引用）

はじめに

神聖ローマ皇帝ジギスムント（1368-1437）
（ゲルマン博物館HPより画像引用）

調査の三つの軸

①テーマ設定の経緯

②時代考証

③マンガによる発信について

1. 大西巷一『乙女戦争』(完結)

『乙女戦争』第1巻表紙
(双葉社HPより画像引用)

- 舞台:15世紀のボヘミア王国
- 題材:フス戦争
- 主人公:フス派の少女シャールカ

①テーマ設定の経緯

- 元々ゲームから歴史に関心を持った作者が、大学で西洋史学を修めた経験を持つ
- フス戦争はあまり知られていないが良い題材だと考えた
- 神聖ローマ帝国時代のドイツはバラバラという印象が強く、そのため一番中世っぽさがあると思った

②時代考証

・想像と意図も込められた服装の造形

・戦時性暴力を描いた場面の多さ

・単行本巻末の解説と文献一覧

『乙女戦争』単行本7巻表紙
（双葉社HPより画像引用）

③マンガによる発信について

- 総合的な表現ができるメディアとしてのマンガ
- そもそもマンガは娯楽の対象ではあるが、同時に現代へのメッセージ性も含んでいる
- 歴史学の研究と歴史物の創作は、目的が異なる全く別の営み

2. 槇えびし『魔女をまもる。』(連載中)

『ネムキ』2017年9月号表紙
(槇えびしツイッターより画像引用)

- 舞台:16世紀の神聖ローマ帝国西部、ライン下流域
- 題材:魔女迫害
- 主人公:青年医師ヨハン・ヴァイヤー

①テーマ設定の経緯

- 作者は歴史全体よりも歴史上の個人に対する関心が強かった
- 作者の心理学への関心
- 現代人の信じる「常識」が生まれてくる様子を描きたかった

②時代考証

・知らないまま描くのは不安なので自分で徹底的に調べている
（「学際魔女研究会」にも加入）

・自分で調べた結果を読者にも知って欲しい

・「ファンタジー」ではなく「歴史」として

（槇えびしツイッターより画像引用）

③マンガによる発信について

- フィクションとしてのマンガに意味がある
- 解説などを入れて「教科書」みたいにはしたくない
- 関心の入り口としてのマンガ

3. 竹良実『辺獄のシュヴェスタ』(完結)

『辺獄のシュヴェスタ』第1巻表紙
(小学館HPより画像引用)

- 舞台:16世紀神聖ローマ帝国内の修道院
- 題材:修道院という閉鎖空間におけるサバイバル
- 主人公:「魔女の子」として修道院に入った少女エラ

①テーマ設定の経緯

- 原作者の描きたい場面や状況が先行
- 距離をもって見ることができる時代としての16世紀
- この時代は書物を通じて相互の対立が大きくなる重要な時期

②時代考証

・材料集めのためのドイツ視察

・監修者の採用

・説得力を与えるための時代考証

視察旅行の訪問先の一つ、マウルブロン修道院
（マウルブロン修道院HPより画像引用）

③マンガによる発信について

- 歴史物かそうでないかという違いによって、マンガ制作に根本的な違いが生まれることは無い
- 監修者の助言や取材をもとにマンガ的なフィクションを描く
- 差別意識を助長するような表現がないように配慮することは必要

おわりに

- 歴史学の知見はマンガにも活かされている
- 「事実」の位置付けはそれぞれ違う
- 歴史学がマンガを通じてできることは何か